



武蔵野

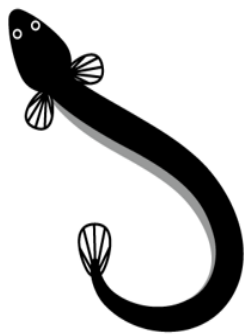
学校だより NO. 2
令和 5年 5月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 大河原 博

新たな集団の中で学ぶ子供たち

校長 大河原 博

風薫る5月、街を彩る花も桜からハナミズキやツツジへと変わり、新緑が目に見え、鮮やかな季節となりました。新年度が始まり1か月が過ぎ、新しい学年、新しい教室で、子供たちは気持ちを新たに頑張っています。

環境の変化というのは、子供たちに限らず、人にとっては負荷のかかるものです。新しい先生や新しい友達との距離感を図りながら、次第に自分らしさを表現し、集団の中での自分の立ち位置を作っていくというのは、なかなかしんどい作業です。



さて、江戸時代、浜名湖の漁師たちは、獲ってきた名物のウナギをより生き生きとした状態で江戸まで運ぶために、ある工夫をしていたそうです。今のように交通手段や輸送技術が発達していたわけではありません。様々な方法を試した結果たどり着いた知恵なのでしょう。普通にウナギだけを集め、そのままの状態に運ぶと、江戸に着くまでにウナギが弱ったり、ときには、死んでしまったりすることもあったそうです。ところが、ウナギの中に一匹だけナマズを入れておくと、全部の魚が江戸に着くまで、生き

生きとした状態のまま保たれたということです。違う種類の魚を入れることで、ある種の緊張感が生じ、それが生き生きとした状態を作り出すという仕組みです。

ウナギと子供たちを比べるのは、少し乱暴なことかもしれませんが、年度初めの1か月、子供たちは、学校生活の様々な場面で緊張感をもち、新しい人間関係や新しい集団でのルールを築こうと本当によく頑張っています。勇気を出して新たな役割に挑戦する児童。自分の性格や生活様式を変えていこうと努力し



校庭で遊ぶ子供たち

ている児童。積極的に集団に貢献していこうとする児童。決して楽なことではないのにそれができるのは、自身が所属する新しい集団での自分を、よりよいものにしていこうとする思いがあるからです。学校という場所は、他者と交流を深めながら、その関わり方を学ぶ場です。考え方や経験の異なる他者と新たな関係性を作っていくことは、楽なことではありません。しかし、自分とは違う感覚や考え方に触れることで新しい発想や発見、成長にも結び付きます。

武蔵野小のHPに、日々の学校の様子を掲載しています。

よろしかったら、右のQRコードからご覧ください。



武蔵野小では、これからも毎日の学習や行事の中で、多様な関わり合いを通して、子供自身が豊かで生き生きとした学校生活を作り出せるように工夫して参ります。